鳥羽	1 1-1/1-1 L							
科目基	礎情報							
科目番号	<u> </u>	23214		科目区分 専門 / 必		修		
授業形態	{	実験		単位の種別と単位数	履修単位:	2		
開設学科		情報機	械システム工学科	対象学年	3			
開設期		通年		週時間数 2				
教科書/教	り りゅう りょう りょう りょう りゅう りゅう りゅう しゅう りゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう し							
担当教員		出江 孝	重					
到達目	標							
2. 構築 3. グル 4. 口頭	した仕組み ープでの課 発表や報告	·を客観的に !題解決を通	プローチにより解決する仕組みが構築で 評価する方法を検討し改善が行える じて自らの立ち位置に応じた働きができ り他者に対して実施した内容がわかるよ	き る				
ルーブ	リック			1=34-11 =13±		T		
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの		未到達レベルの目安		
評価項目1			論理的かつ効率的なアプローチで 解決方法を提案し実装できる	与えられた課題を解決 が構築できる	を解決する仕組み 与えられた課題を解決できる みが構築できない			
評価項目2			明確な評価指標を構築し客観評価を行なった結果、効率的に改善できる	評価指標を検討し改善 ことができる	に役立てる	評価指標を検討できず、改善項目 を見つけられない		
評価項目3			グループ内での立ち位置を構築し チームのために活躍できる	リーダーの指示により 業務を遂行できる	与えられた	指示された内容も実施できず、チ ームに貢献できない		
評価項目	<u></u>		論理的に発表でき、他人に内容を	発表と質疑応答により	実施した内	他人に自ら実施した内容を理解さ		
		TE	明確に伝えることができる	容について伝えること	かできる	せることができない		
	到達目標	リヨとの かんりょう	関係					
教育方:	法等							
概要		地域の る。	ng)である。 フィールドに出向いて問題点・解決策を					
授業の進	め方・方法	を確立 作成し 能力を	する。 たシステムについてデモ・ポスター展示 向上させる。	を行い、口頭にて説明、	意見交換を行			
	め方・方法	を確立 作成し 能力を 最終的	する。 たシステムについてデモ・ポスター展示 向上させる。 には報告書を作成し、取り組んだ内容に	を行い、口頭にて説明、 ついて自ら客観的な評価	意見交換を行 方法を検討し	テうことによりプレゼンテーション J分析を実施する。		
注意点		を確立 作成し 能力を 最終的 授業計	する。 たシステムについてデモ・ポスター展示 向上させる。 には報告書を作成し、取り組んだ内容に 画はあくまでも例であり、指導教員の指	を行い、口頭にて説明、 ついて自ら客観的な評価	意見交換を行 方法を検討し	テうことによりプレゼンテーション J分析を実施する。		
注意点 授業の	属性・履	を確立 作成し 能力を 最終的 授業計	する。 たシステムについてデモ・ポスター展示 向上させる。 には報告書を作成し、取り組んだ内容に 画はあくまでも例であり、指導教員の指 分	を行い、口頭にて説明、こついて自ら客観的な評価 こついて自ら客観的な評価 ほぶに従ってプロジェクト	意見交換を行 方法を検討し	すうことによりプレゼンテーション J分析を実施する。 こと		
注意点 授業の		を確立 作成し 能力を 最終的 授業計	する。 たシステムについてデモ・ポスター展示 向上させる。 には報告書を作成し、取り組んだ内容に 画はあくまでも例であり、指導教員の指 分	を行い、口頭にて説明、 ついて自ら客観的な評価 示に従ってプロジェクト	意見交換を行 方法を検討し	テうことによりプレゼンテーション J分析を実施する。		
注意点 授業の □ アク:	属性・履f ティブラー <u>:</u>	を確立 作成し 能力を 最終的 授業計	する。 たシステムについてデモ・ポスター展示 向上させる。 には報告書を作成し、取り組んだ内容に 画はあくまでも例であり、指導教員の指 分	を行い、口頭にて説明、こついて自ら客観的な評価 こついて自ら客観的な評価 ほぶに従ってプロジェクト	意見交換を行 方法を検討し	すうことによりプレゼンテーション J分析を実施する。 こと		
主意点 受 業 の 」アク:	属性・履f ティブラー <u>:</u>	を確立した。作成の大学を作成した。 作成の大学 一次	する。 たシステムについてデモ・ポスター展示 向上させる。 には報告書を作成し、取り組んだ内容に 画はあくまでも例であり、指導教員の指 分 □ ICT 利用	を行い、口頭にて説明、こついて自ら客観的な評価 記示に従ってプロジェクト	意見交換を行 i方法を検討し を遂行するこ	すうことによりプレゼンテーション J分析を実施する。 こと		
主意点 受 業 の 」アク:	属性・履f ティブラー <u>:</u>	を確立した。作成力を的最終計を上の区では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次	する。 たシステムについてデモ・ポスター展示 たシステムについてデモ・ポスター展示 向上させる。 には報告書を作成し、取り組んだ内容に 画はあくまでも例であり、指導教員の指 分 □ ICT 利用 授業内容	を行い、口頭にて説明、 こついて自ら客観的な評価 3示に従ってプロジェクト □ 遠隔授業対応 週ご。	意見交換を行う法を検討した遂行することの到達目標	すうことによりプレゼンテーション		
主意点 受 業 の 」アク:	属性・履f ティブラー <u>:</u>	を確立した。作成のでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	する。 たシステムについてデモ・ポスター展示 たシステムについてデモ・ポスター展示 向上させる。 には報告書を作成し、取り組んだ内容に 画はあくまでも例であり、指導教員の指 分	を行い、口頭にて説明、 こついて自ら客観的な評価 ほ示に従ってプロジェクト □ 遠隔授業対応 週ごで 過ごで	意見交換を行う法を検討した遂行することの到達目標が取り組む分割	すうことによりプレゼンテーション		
主意点 受 業 の 」アク:	属性・履f ティブラー <u>:</u>	を確立した。 作能最終計 授業計 修上の区 ニング 週 週 2週	する。 たシステムについてデモ・ポスター展示 たシステムについてデモ・ポスター展示 向上させる。 には報告書を作成し、取り組んだ内容に 画はあくまでも例であり、指導教員の指 分 □ ICT 利用 授業内容	まを行い、口頭にて説明、 こついて自ら客観的な評価 は示に従ってプロジェクト □ 遠隔授業対応 □ 週ご。 自らが 地域や	意見交換を行 i方法を検討し を遂行するこ との到達目標 が取り組む分 や身の回りの	すうことによりプレゼンテーション		
主意点 受 業 の 」アク:	属性・履f ティブラー <u>:</u>	を確立した。作成のでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	する。 たシステムについてデモ・ポスター展示 向上させる。 には報告書を作成し、取り組んだ内容に 画はあくまでも例であり、指導教員の指 分 □ ICT 利用 □ ICT NO ICT ICT ICT NO ICT	を行い、口頭にて説明、 こついて自ら客観的な評価 活に従ってプロジェクト □ 遠隔授業対応 週ごで 自らが 地域い 取り約	意見交換を行う法を検討した遂行することの到達目標が取り組む分割の回りの調理を決しています。	すうことによりプレゼンテーション		
注意点 授 業 の 」アク:	属性・履行	を確立した。 作成力を的 接業計 修上グ 週週 2週 3週	する。 たシステムについてデモ・ポスター展示 向上させる。 には報告書を作成し、取り組んだ内容に 画はあくまでも例であり、指導教員の指 分	まを行い、口頭にて説明、 こついて自ら客観的な評価 は示に従ってプロジェクト □ 遠隔授業対応 □ 週ごで 自らが ・ 地域が 取り約 ・ 課題類	意見交換を行う法を検討したを遂行することの到達目標が取り組む分割の回りの調理を決める。	すうことによりプレゼンテーション		
注意点 授業の 」アク:	属性・履f ティブラー <u>:</u>	を作成力を 作能最 授業 区 上グ 週 週 週 週 週 3 週 4 週 5 週	する。 たシステムについてデモ・ポスター展示 向上させる。 には報告書を作成し、取り組んだ内容に 画はあくまでも例であり、指導教員の指 分	を行い、口頭にて説明、 こついて自ら客観的な評価 活に従ってプロジェクト 遠隔授業対応 週ごで 自らが 地域が 取り網 課題網 課題網	意見交換を行う法を検討したを遂行することの到達目標が取り組む分割を身の回りの調理を決ています。	すうことによりプレゼンテーション		
注意点 授業の 」アク:	属性・履行	を作能最 学 区 を作能最 受 上 グ 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週	する。 たシステムについてデモ・ポスター展示 たシステムについてデモ・ポスター展示 向上させる。 には報告書を作成し、取り組んだ内容に 画はあくまでも例であり、指導教員の指 分	また行い、口頭にて説明、 こついて自ら客観的な評価 活に従ってプロジェクト □ 遠隔授業対応 週ごでは 自らが 地域が 取り終 課題が 課題が 実現の	意見交換を行う法を検討したを遂行することの到達目標が取り組む分割を身の回りの調理を決ていた。 はいまま はいま はいま はいま はいま はいま はいま はいま はいま はい	すうことによりプレゼンテーション		
主意点 受 業 の 」アク:	属性・履行	を確立しを 作能最 授業 区 上グ 週週 週週 3週 4週 5週 6週	する。 たシステムについてデモ・ポスター展示向上させる。 には報告書を作成し、取り組んだ内容に 画はあくまでも例であり、指導教員の指 分 □ ICT 利用 授業内容 ガイダンス 課題検討(1) 課題検討(2) 実現方法検討(1) 実現方法検討(1) 基礎技術習得(1)	また行い、口頭にて説明、 こついて自ら客観的な評価 活に従ってプロジェクト □ 遠隔授業対応 週ごで 自らが 地域が 取り終 課題が 課題が 実現の る	意見交換を行う法を検討した遂行することの到達目標が取り組む分に向りの調整を決っている。 これ はいま	すうことによりプレゼンテーション		
注意点 授業の アクラ	属性・履行	を作能最 授業 区 を作能最 授業 区 り 上 グ り 週 週 週 週 週 3 週 4 週 5 週 6 週 7 週	する。 たシステムについてデモ・ポスター展示 向上させる。 には報告書を作成し、取り組んだ内容に 画はあくまでも例であり、指導教員の指 分 □ ICT 利用 授業内容 ガイダンス 課題検討(1) 課題検討(2) 実現方法検討(1) 実現方法検討(1) 基礎技術習得(1) 基礎技術習得(1)	を行い、口頭にて説明、 こついて自ら客観的な評価 添に従ってプロジェクト 遠隔授業対応 週ごで 自らが 地域が 取り網 課題が 課題が 実現で まってのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	意見交換を行う方法を検討したを遂行することの到達目標が取り組む分割を決に向けてでいために必要が取りために必要がない。	すうことによりプレゼンテーション		
注意点 授業の アクラ	属性・履行	を作能最	する。 たシステムについてデモ・ポスター展示 たシステムについてデモ・ポスター展示 向上させる。 には報告書を作成し、取り組んだ内容に 画はあくまでも例であり、指導教員の指 分	を行い、口頭にて説明、 こついて自ら客観的な評価 添に従ってプロジェクト - 遠隔授業対応 - 週ごで 自らが 地域り 親別 課題が 課題が 実現の まる。 実現の まする。 実現の まする。	意見交換を行うることの到達目標が取り組む課題を決に向けてでいために必要のなる。	すうことによりプレゼンテーション 一分析を実施する。 こと 「実務経験のある教員による授業 野を決めることができる 課題を調査することができる 要現方法を検討できる 実現方法を検討できる 実現方法を決定できる な技術について調査することができ な技術について学修することができ な技術について学修することができ な技術について自ら学修することが		
主意点 授業の ファクラー 受業計	属性・履行	修二 を作能最 授 の 担 の	する。 たシステムについてデモ・ポスター展示 たシステムについてデモ・ポスター展示 向上させる。 には報告書を作成し、取り組んだ内容に 画はあくまでも例であり、指導教員の指 分	を行い、口頭にて説明、 こついて自ら客観的な評価 添に従ってプロジェクト □ 遠隔授業対応 □ 遠隔授業対応 □ はいはいはいはいはいはいはいはいます。 はまるは、まままます。 まままます。 とまままます。	意見交換を行うなる。 「方法を検討したを遂行するる」 上の到達目標が取り組むから 自む課題向けてで 対決に向ける。 のために必要で のた	すうことによりプレゼンテーション		
主意点 受業の ファク・ 受業計	属性・履行	修工 修工 修工 修工 修工 修工 修工 の の の の の の の の の の の の の	する。 たシステムについてデモ・ポスター展示向上させる。 には報告書を作成し、取り組んだ内容に 画はあくまでも例であり、指導教員の指 分 「ICT 利用 「投業内容 ガイダンス 課題検討(1) 課題検討(2) 実現方法検討(1) 実現方法検討(2) 基礎技術習得(1) 基礎技術習得(1) 基礎技術習得(2) 基礎技術習得(3) 基礎技術習得(4) 基礎技術習得(5) プロトタイプ開発(1) プロトタイプ開発(2)	を行い、口頭にて説明、 こついて自ら客観的な評価 添に従ってプロジェクト 遠隔授業対応 週ごの 自らが 地域が 取り網 課題類 実現の まる 実の 変を表する。 実できる。 必要が 必要が	意見交換を行う方法を検討した遂行することの到達目標が取り組むけいの間を決定しために必要でいために必要でいために必要である。以構成要素をは構成要素をは構成要素をは、	すうことによりプレゼンテーション 一 実務経験のある教員による授業 野を決めることができる 課題を調査することができる 実現方法を検討できる 実現方法を検討できる な技術について学修することができ な技術について学修することができ な技術について学修することができ な技術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが		
主意点 受業の ファク・ 受業計	属性・履行・マグラー 3 画 1stQ	修工 修工 修工 修工 修工 修工 修工 の の の の の の の の の の の の の	する。 たシステムについてデモ・ポスター展示向上させる。 には報告書を作成し、取り組んだ内容に 画はあくまでも例であり、指導教員の指 分	また行い、口頭にて説明、こついて自ら客観的な評価は示に従ってプロジェクト 遠隔授業対応 週ごの 自らが 地域が 取り約 課題類 課題の 実現のる 実現のる 実できれる という アフロ できる 必要が 必要が プロロ	意見交換を行う方法を検討したを遂行することの到達目標が取り組む分割を決けてでいために必要が取りために必要のために必要のために必要のために必要のために必要を対しために必要を対しために必要を対しために必要を対しために必要を対しために必要を対している。は構成要素を対している。は、は、クタイプを構成を対している。	すうことによりプレゼンテーション 一 実務経験のある教員による授業 野を決めることができる 課題を調査することができる 実現方法を検討できる 実現方法を検討できる な技術について関査することができな な技術について学修することができな な技術について学修することができな な技術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが な対域について自ら学修することが な対域について自ら学修することが な対域について自ら学修することが な対域について自ら学修することが な対域について自ら学修することが な対域について自ら学修することが な対域について自ら学修することが		
主意点 授業の アクラ	属性・履行・マグラー 3 画 1stQ	修工 修工 修工 修工 修工 修工 修工 の の の の の の の の の の の の の	する。 たシステムについてデモ・ポスター展示向上させる。 には報告書を作成し、取り組んだ内容に 画はあくまでも例であり、指導教員の指 分 「ICT 利用 「投業内容 ガイダンス 課題検討(1) 課題検討(2) 実現方法検討(1) 実現方法検討(2) 基礎技術習得(1) 基礎技術習得(1) 基礎技術習得(2) 基礎技術習得(3) 基礎技術習得(4) 基礎技術習得(5) プロトタイプ開発(1) プロトタイプ開発(2)	を行い、口頭にて説明、 ついて自ら客観的な評価 示に従ってプロジェクト	意見交換を行うを検討したを検討したを検討したを検討したを検討したを検討したが取り連ましたの。 は、	すうことによりプレゼンテーション		
注意点 授業の □ アクラー 授業計	属性・履行・マグラー 3 画 1stQ	修工 修工 修工 修工 修工 修工 修工 の の の の の の の の の の の の の	する。 たシステムについてデモ・ポスター展示向上させる。 には報告書を作成し、取り組んだ内容に 画はあくまでも例であり、指導教員の指 分	を行い、口頭にて説明、 ついて自ら客観的な評価 示に従ってプロジェクト	意見交換を行うを検討したを検討したを検討したを検討したを検討したを検討したが取り連ましたの。 は、	すうことによりプレゼンテーション		
注意点 授業の つ アクラー 授業計	属性・履行・マグラー 3 画 1stQ	Ferriman	する。 たシステムについてデモ・ポスター展示向上させる。 には報告書を作成し、取り組んだ内容に 画はあくまでも例であり、指導教員の指 分 □ ICT 利用 授業内容 ガイダンス 課題検討(1) 課題検討(2) 実現方法検討(1) 実現方法検討(1) 基礎技術習得(1) 基礎技術習得(1) 基礎技術習得(3) 基礎技術習得(4) 基礎技術習得(5) プロトタイプ開発(1) プロトタイプ開発(3) プロトタイプ開発(4)	また行い、口頭にて説明、こついて自ら客観的な評価 は示に従ってプロジェクト	意見交換を行うることの野には、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きないでは、まないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	すうことによりプレゼンテーション し分析を実施する。 こと □ 実務経験のある教員による授業 野を決めることができる 課題を調査することができる 実現方法を検討できる 実現方法を検討できる な技術について調査することができな な技術について学修することができな技術について学修することができな な技術について自ら学修することが は対術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが は技術について自ら学修することが は技術について自ら学修することが は技術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが は技術について自ら学修することが は技術について自ら学修することが は対称に対称にある は対称についてきる を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を		
注意点 授業の	属性・履行・マグラー 3 画 1stQ	Ferriman	する。 たシステムについてデモ・ポスター展示向上させる。 には報告書を作成し、取り組んだ内容に 画はあくまでも例であり、指導教員の指 分 □ ICT 利用 授業内容 ガイダンス 課題検討(1) 課題検討(2) 実現方法検討(1) 実現方法検討(1) 基礎技術習得(1) 基礎技術習得(1) 基礎技術習得(3) 基礎技術習得(4) 基礎技術習得(5) プロトタイプ開発(1) プロトタイプ開発(3) プロトタイプ開発(4) 中間発表	また行い、口頭にて説明、こついて自ら客観的な評価 は示に従ってプロジェクト	意見交換を行うることの野には、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きないでは、まないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	すうことによりプレゼンテーション		
注意点 授業の 授業計	属性・履行・マグラー 3 画 1stQ	F	する。 たシステムについてデモ・ポスター展示向上させる。 には報告書を作成し、取り組んだ内容に 画はあくまでも例であり、指導教員の指 分 □ ICT 利用 授業内容 ガイダンス 課題検討(1) 課題検討(2) 実現方法検討(1) 実現方法検討(2) 基礎技術習得(1) 基礎技術習得(1) 基礎技術習得(3) 基礎技術習得(4) 基礎技術習得(5) プロトタイプ開発(1) プロトタイプ開発(3) プロトタイプ開発(3) 中間発表 中間発表	を行い、口頭にて説明、 ついて自ら客観的な評価 示に従ってプロジェクト	意見交換を行うる。 一点を遂行する。 一点を遂行する。 一点を変えている。 「点を変えている。 一点を変えている。 一点を変えているを変えている。 「点を変えている。 一点を変えている。 一点を変えている。 一点を変えている。 一点を変えている。 一点を変えている。 一点を変えている。	すうことによりプレゼンテーション し分析を実施する。 こと □ 実務経験のある教員による授業 野を決めることができる 課題を調査することができる 実現方法を検討できる 実現方法を検討できる な技術について調査することができな な技術について学修することができな技術について学修することができな な技術について自ら学修することが は対術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが は技術について自ら学修することが は技術について自ら学修することが は技術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが な技術について自ら学修することが は技術について自ら学修することが は技術について自ら学修することが は対称に対称にある は対称についてきる を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を		
注意点 授業の □ アクラー 授業計	属性・履行ティブラーコ 画 1stQ	修士 修士 修士 り り り り り り り り り り り り り	する。 たシステムについてデモ・ポスター展示向上させる。 には報告書を作成し、取り組んだ内容に 画はあくまでも例であり、指導教員の指 分	を行い、口頭にて説明、 ついて自ら客観的な評価 示に従ってプロジェクト	意見交換を行うる。 一点を遂行する。 一点を変えている。 一点を変えているを変えている。 一点を変えている。 一点を変えている。 一点を変えている。 一点を変えている。 一点を変えている。	すうことによりプレゼンテーション し分析を実施する。 こと □ 実務経験のある教員による授業 野を決めることができる 課題を調査することができる 実現方法を検討できる 実現方法を検討できる な技術について関査することができ な技術について学修することができ な技術について学修することができ な技術について自ら学修することが な対策について自ら学修することが な対策について自ら学修することが な対策について自ら学修することが な対策について自ら学修することが な対策について自ら学修することが な対策について自ら学修することが な対策できる いまする いまする いまする いまする いまする いまする いまする います		

	5週	システム開発(5)		課題解決に向けた	システム棒	築ができる			
	6週	評価指標検討	評価指標検討			構築したシステムを評価する方法を検討することがで きる				
	7週	システム評価 (1)			利用者試験などを	利用者試験などを通じてシステム評価を実践できる				
	8週	システム評価 (2)			利用者試験などを	利用者試験などを通じてシステム評価を実践できる				
	9週	システム評価(3	システム評価(3)			利用者試験などを通じてシステム評価を実践できる				
	10週	システム評価(4)		得られたデータを	得られたデータを分析できる				
	11週	発表資料作成			デモ発表のための	デモ発表のための資料作成、動作準備ができる				
	12週	デモンストレーシ	ョン発表		システムのデモン を伝えることがで	システムのデモンストレーションにより他者に有効性 を伝えることができる				
4thQ	13週	発表の振り返り			得られた意見をも 討できる	得られた意見をもとに最終報告に何を記載すべきか検 討できる				
	14週	報告書執筆			最終報告書を執筆	最終報告書を執筆できる				
	15週	報告書執筆	報告書執筆			論理的に展開する報告書が執筆できる				
	16週	教員からのフィー	ドバック		報告書に基づいた! とができる	報告書に基づいた教員からのフィードバックを得るこ とができる				
モデルコアカ	リキュラム		 全目標		•					
分類 分野 学習内容 学習内容の到達目標 到達レベル 授業週										
評価割合		•	•							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計			
総合評価割合	0	30	20	10	40	0	100			
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0			
専門的能力	0	20	10	0	30	0	60			
分野横断的能力	0	10	10	10	10	0	40			